



# OVERSEAS

## 海外事情

### Hashemite Kingdom of Jordan



— ヨルダン・ハシェミット王国 —

## 多様性の国 ヨルダン



**神波 泰夫** KANNAMI Yasuo  
パシフィックコンサルタンツ株式会社／グローバルカンパニー／理事

### 初めての中東

ヨルダン（正式名称：ヨルダン・ハシェミット王国）は中東に位置する国で、イスラム教の開祖ムハンマドの子孫であるハーシム家を王家とする立憲君主制の国家です。死海やペトラ遺跡のある国と言え、聞き覚えのある方もいるのではないのでしょうか。西にイスラエル及びパレスチナ西岸地区、北にシリア、東にイラク、南にサウジアラビアといった情勢が不安定な国々と国境を接しながらも、国王のバランス外交によって国内の治安は安定しており、周辺国から多くの難民を受け入れるなど中東地

域の平和と安定において重要な役割を果たしています。

当社は2022年からヨルダンで唯一の海に面した都市であるアカバ経済特区(ASEZ)において、「ASEZ都市開発マスタープラン更新プロジェクト」の業務を行っています。産油国の多い中東にありながら天然資源に恵まれていないヨルダンは国家の経済・財務状況が良いとは言えず、アカバ経済特区には国家経済を牽引する産業・観光の拠点として、外貨の獲得と今後も増え行く人口の受け皿となる雇用の創出の役割が期待されています。

コンサルタントとして多くの国

を訪問した私でしたが、中東はヨルダンが初めてでした。周辺国の不安定な情勢から少し怖いイメージもあり、いつもより入念に情報収集をして期待と不安を胸に渡航しました。

### 砂漠と海の街 アカバ

首都のアンマンから車で5時間、どこまでも広がる砂漠のハイウェイを抜けてたどり着くアカバは、砂漠と同じベージュ色の街並みの中にヤシの木が並び、中東の雰囲気はありながらも、どこことなく日本の熱海を彷彿とさせるこぢんまりした観光の街でした。海岸からアカ



写真1 アカバの街



写真2 紅海沿いのビーチ



写真3 ワディ・ラム砂漠にて

バ湾を見渡せば、エジプト、イスラエル、サウジアラビアが見えるという日本では考えられない環境にありながら、穏やかな空気が流れていることに驚きました。建物やインフラは多少の問題はありながらも一定のレベルでは整備されており、治安や衛生環境も大きな問題はなく、商店が立ち並び多くの子供や女性も行き交うなど、日本の地方の街とさほど変わらない環境に、当初抱いていた不安はいつのまにか消え去っていました。

アカバは世界的なダイビングスポットとして知られる紅海のアカバ湾の最奥に位置し、美しいサンゴ礁のビーチを有しています。後背地には赤茶色の岩山と広大な砂漠が広がり、砂漠と海のコントラストが特徴的な街です。世界遺産に登録されるワディ・ラム保護区にも近く、多くの観光客を惹きつけています。湾岸諸国の富裕層向けの高級住宅の開発が多数進められており、今後も街の様相が大きく変わっていくと考えられます。

### おしゃべり好きで個性が強い人々

ヨルダン人は社交的な人が多く、親日的な人が多いように感じます。アカバの位置するヨルダン南部は保守的な人が多く残る地域だそう



写真4 カウンターパートのご招待でBBQ



写真5 BBQの後にはみんなでクナーファ

で、女性の社会進出にはまだまだ課題があるようですが、仕事で関わる女性の方々は明るく聡明で意見をはっきり言う方が多い印象です。国外で教育を受ける方も多く、英語のレベルも高いことに驚きました。そんな彼らはかなりのおしゃべり好き。会議を開けば意見が絶えることはなく、一人一人の話が長いので時間切れになることもしばしば。更に、自分の意見を言ったら満足して他の人の意見は聞かない、言いたいことだけ言って立ち去るなど特有の気質があり、話をまとめるのに一苦勞です。また、「あいつが出るなら私は出ない」と会議に来なかったり、嫌いな人の意見は無条件に否定したりと協調性があまりありません。出世欲や出身部族間の対抗意識も強く、「個」や「親族」を大切に考える考えが強いように思います。

しかし、深く付き合ってみると、一人一人の根は優しく、ユーモアのセンスのある楽しい人々です。最初のうちはとっつきにくいと感じることもありましたが、時間をかけて相手の言葉に耳を傾けたことが信頼関係に繋がり、今ではカウンターパート側といいチームになってきているように思います。

### 新鮮なライフスタイル

ヨルダンに来て一番驚いたのは、一日の時間の使い方が日本人とは大きく違うことです。我々のカウンターパートである現地行政機関の方々の生活を例にご紹介します。朝は朝食を済ませて午前8時始業、午後3時まで連続して7時間働き、残業はあまりせずに帰宅。それから学校から帰った子供たちを含めて家族みんなで昼食をとり、その後は昼寝などリラックスした時間



写真6 ビーチでくつろぐ人々



写真7 男の園 メンズカフェの様子

を過ごして外が涼しくなるのを待ちます。日が沈んだら第二部開始。男性は街中に無数にあるメンズカフェに集まり、チャイ（紅茶）やジュースを飲み、シーシャ（水たばこ）を吸いながらカードゲームやTVでのスポーツ観戦に興じます。女性は家の中で友人と集まり、シーシャを吸い、音楽をかけて踊ります。娯楽の少ないアカバでは家族連れは公園やビーチに行ってくつろいだり、バーベキューをしたりして楽しむことが多いそうです。子供は早めに寝かされるようですが、大人たちは深夜まで楽しい時間を過ごすことも珍しくないようで、夜遅くに軽めの夕食を食べるとか。日本人と比べて一日をととても長く使っているように感じます。我々チームは習慣的に昼12時頃になると口寂しくなってしまう、オフィスでバナナなどを食べてしのいでいます。習慣とは面白いものですね。

### 美味しいけどちょっとヘビーな食文化

渡航前にはイメージのなかったヨルダンの料理ですが、実際に訪れてみてその豊富さと美味しさに驚きました。砂漠の国と侮るなか



写真8 安旨グルメ モロヘイヤスープとチキン

れ。肉だけでなく野菜や豆類、チーズなどの乳製品、フルーツも豊富で、パンもお米もあり、味付けも日本人の口に合います。アカバは海に面した街であることから魚やエビなどのシーフードも豊富で、グリルやフライにして楽しめます。

イスラム教国であるため豚肉は食べず、肉と言ったらラム肉。野菜とともに串焼きにしたケバブやミートボールにしたコフタ、ヨーグルトソースで煮てご飯に乗せたマンサフなど調理法も豊富です。前菜にはひよこ豆をペーストにしたフムスやパセリのサラダであるタブレが定番です。どのお店でもホブスという平たい円形のパンが必ずついてくるので、ペーストにつけたり、肉を巻いたりして食べます。このパンはお皿やラップ替わ



写真9 タワービールで乾杯

りにも使われ、料理の下に敷いてあったり、保温用に上に乗せてあったりします。朝ごはんにはこのパンを主食にフムスやひよこ豆のコロッケ、そら豆を煮てつぶしたものなど腹持ちのいいものを食べるのが定番だそうです。

そして老若男女問わず甘党の多いヨルダンではスイーツも欠かせません。デーツ（ナツメヤシの実）は日本でも有名かと思いますが、クナーファという細麺状の生地チーズやナッツを入れてシロップに浸した伝統菓子も人気です。シロップを吸いこんだ激甘の生地か



写真10 グラスボートでフィッシング



写真11 地元のパン焼き体験にも参加



写真12 オープンダンプサイト



写真13 アカバの床屋にて地元民になりきる

ら塩気のあるチーズが出てくる超ヘビー級スイーツで、食後に食べるには要注意です。スイーツとチャイとシーシャでヨルダンでは今日も楽しい夜が更けていきます。

余談ですが、私のようなお酒好きにはありがたいことに、ヨルダンはイスラム教国でありながら比較のお酒が手に入りやすい環境があり、ヨルダン産のビールやワインも生産されています。アカバでは観光客向けにアルコールを提供する飲食店も複数あり、大きな不自由なく過ごすことができます。

### ビーチリゾート地での休日

アカバは海に面しているながら、砂漠から吹く乾燥した風によって「世界一湿度の低いビーチリゾート」といわれています。実際に過ご

してみても、日差しは強いものの、ジメジメとした蒸し暑さはなく、カラッと快適です。そんなアカバで過ごす休日はシュノーケリングやダイビング、釣り、グラスボートなどもっばらマリニアクティビティです。水面下には美しいサンゴ礁が広がります。釣りは2回挑戦しましたが、釣り竿はまさかの発泡スチロール。当たりを感じるのが難しく、地元の人のように釣りをすることができませんでしたが、小さいグルクンのような魚が何匹か釣れました。釣った魚はアカバ名物のサヤディーヤという炊き込みご飯にしておいしくいただきました。

アカバで一つ残念なのはお土産。中国からの安い輸入品も多いですが、地元の人が造ったハンドメイド品や伝統工芸品になると気軽に

手が出せない金額になります。値段の割にクオリティが低いものも多く、いつも買いたいものが見つかりません。

### 豊かに見えて実は大変な暮らし

一見、豊かに見えるヨルダンでの暮らしですが、世界銀行の基準では低位中所得国に分類されており、金融危機以降、難民受入れや、周辺国の情勢悪化、新型コロナウイルスによる観光客や外国投資の減少によって経済状況の悪化が深刻になっています。ヨルダン国の人口推計では2050年までに人口が2倍程度になる可能性があり、増加する人口への公共サービスの提供による財政負担の増加や更なる雇用状況の悪化は今後大きな問題になると想定されます。

アカバでは公共交通や教育、廃棄物処理を含む公共サービスの質が低いことや鉄砲水・地震といった災害のリスクがあることも問題となっており、都市課題は山積みです。社会的な問題を変えていくことは簡単ではないと思いますが、アカバをより安全で暮らしやすく、魅力のある街にしていけるように、引き続き頑張っていきたいと思っています。